

# GROHE CUP 第66回全日本障害馬術大会2014 Part I

Date: 2014年12月4日(木)~7日(日) Place: 杉谷馬事公苑

主催: (公社) 日本馬術連盟

後援: 在日フランス大使館/アンステイチュ・フランセ日本 駐日ポーランド共和国大使館 農林水産省

日本放送協会 日本中央競馬会

Report: 北野 あつさ Photo: UNITED PHOTO PRESS

今大会は当連盟メジャーパートナー LIXIL グループのメンバーである GROHE がタイトルスポンサーとなり、「GROHE CUP 第66回全日本障害馬術大会2014 Part I」として開催しました。

実施種目は大障害、中障害A、中障害B。各クラスとも初日にスピード&ハンディネス、2日目に標準競技、そして最終日に決勝競技を実施、大障害の決勝競技は《全日本障害飛越選手権》として行いました。寒波の影響で、競技初日と2日目は寒さが厳しく風も強い中での実施でしたが、最終日には風も収まって幾分暖かさを感じられるコンディションとなりました。

選手権競技には当連盟名誉総裁常陸宮妃殿下のご臨席を賜りました。また、駐日ポーランド共和国大使ツィリル・コザチエフスキ閣下がご家族とともに競技を観戦、表彰式ではポーランド大使賞を授与してくださいました。

## 大障害

### 佐藤泰&如意、2人目の女性チャンピオンに!

大障害には22のエントリーがあったが、3人馬が出場を取り止めたため、初日のスピード&ハンディネス競技に出場したのは19人馬となった。選手権優勝経験があるのは広田龍馬と増山誠倫の2人。昨年のチャンピオン、宇都宮蒼司&トゥーシェバスはヨーロッパを拠点に活動しているため不在。比較的新しい顔ぶれも多い印象だった。

初日のスピード&ハンディネスでは3人馬がノーミス走行した。

スピード&ハンディネスであるため、タイムが早ければ落下があっても勝つ可能性はあるが、



▲1位 佐藤泰 & 如意



▲ NHKのインタビューを受ける佐藤

日本一を目指す戦いはさすがにそれほど甘くはない。佐藤泰&如意(明松寺馬事公苑)が80.26秒で1位、増山&ジョニーブロント(小山 RC)が80.48秒で2位、1落下の岩館正彦&I'm キャスパー(RCクレイン OP)が87.19秒で3位に入った。

佐藤&如意はワールドカップ日本リーグでもトップに立ち、勢いに乗っている。佐藤は「前回の全日本では失権してしまったので、無事にゴールさせたいという気持ちでした。今日はいい走行ができました。明日、明後日と障害物が高くなっていくので如意にとっては過酷かもしれませんが、しっかりケアして決勝ではいつもの元気をもちたいです」と意気込みを語った。

2日目は標準競技。2人馬減って17人馬が出場したが、クリアラウンドは1頭も出ず。障害減点0は2人馬あったが、いずれもタイム減点を負った。ベテラン二宮誠治&ヴィギラント(成田 RC)が65.18秒で減点1で1位、小池啓補&ヴェスヴィウス(守谷 RC)が67.90秒で減点2で2位。1落下とタイムオーバーで減点5の新東遊行&コナー(イデア RC)が3位となった。ゴールを切った16人馬のうち規定タイム63秒以内だったのは2人馬のみ。佐藤&如意が59.23秒、中谷彩夏&カバレロZ(関西大学)が62.71秒だが、いずれも障害減点8を喫した。

大障害ランキングトップのヴィギラント。二宮は「今年はずっと調子が良くランキングでもトップになりました。今日もとても調子が良くて「いい馬だな」と思いました。決勝でも今日と同じように普段通りの走行で頑張ります」と振り返った。

最終日の選手権競技は2回走行で実施、2日間の予選の順位点合計の少ない上位20選手が出場できる。今大会では2日間とも完走した16人馬が進んだ。1位通過は佐藤&如意(1位+6位)、2位は小池&ヴェスヴィウス(5位+2位)、3位は二宮&ヴィギラント(8位+1位)。選手権競技第1走行の出番は、この予選通過順位のリバースオーダーとなる。

選手権競技は従来よりも高いレベルで実施した。第1走行のコースには160cmの垂直障害が3個含まれ、選手からは「これまでとは全然違う」という声が聞こえてきた。案の定、なかなかクリアラウンドする人馬が出ない。二宮&ヴィギラントと小池&ヴェスヴィウスが減点8、広田&ヤマト(那須 TF)と増山&ジョニーブロントが減点4でゴールして、最終出番の佐藤&如意を迎えた。「自分よりも大きい障害があっとうろうかと思った」という佐藤だが、持ち前のガッツで果敢に挑んでいく。佐藤が如意にかける「頑張れ!」の声と、観客席からの「頑張れ!」が重なる。如意もそれに応えるようにめいりいっばい体を使って障害を飛越していった。最終障害は160cmの垂直。これをクリアした瞬間、佐藤は「如意、ありがとう!」と愛馬をねぎらった。

第2走行もボリュームのあるコースが組まれた。全10障害で6番がダブル。160cmが4つセットされた。4番の垂直、さらに終盤の3つは8番と9番が垂直、10番はオクサーである。出番は第1走行の成績のリバースオーダーだ。前半の選手は皆、減点8以上を喫してトータル減点は20を超えてしまった。いよいよ第1走行で一桁減点の5人馬の登場だ。二宮&ヴィギラントと小池&ヴェスヴィウスはともに1落下とタイムオーバーで減点5、



▲全日本障害飛越選手権 表彰式

順位	選手名	馬名	所属	第1走行		第2走行		減点合計
				減点	タイム	減点	タイム	
1	佐藤 泰	如意	明松寺馬事公苑	0	69.89	8	58.09	8
2	小池 啓補	ヴェスヴィウス	守谷 RC	8	71.84	5	65.47	13
3	二宮 誠治	ヴィギラント	成田 RC	8	72.10	5	63.27	13
4	増山 誠倫	ジョニーブロント	小山 RC	4	75.39	9	64.06	13
5	二位 関 亮	スタンディングール	湯の町 RC	16	71.23	8	62.80	24
5	林 義昌	キャリーズサン	北総 RC	16	71.23	8	61.50	24
7	広田 龍馬	ヤマト	那須トレーニングF	4	72.68	20	62.00	24
8	横田 裕哉	キーブアタッチ	RCクレイン奈良	12	72.43	13	63.82	25
9	岩館 正彦	I'm キャスパー	RCクレインOP	20	70.61	8	61.95	28
10	小林 義彦	クワンダー	飯沼ライディングパーク	23	84.09	9	63.06	32

\*減点合計が同じ場合は第1走行のタイムが早い人馬が上位。



▲2位 小池啓補 & ヴェスヴィウス



▲3位 二宮誠治 & ヴィギラント

トータル13で並んだ。第1走行を減点4でゴールした増山&ジョニーブロントは、2落下とタイムオーバーで減点9、トータルは先の2人馬と同じ減点13。広田&ヤマトは落下が重なってトータル減点24となってしまった。

いよいよ佐藤&如意。3落下以内で帰ってくれば優勝が決まる。落ち着いて見えた佐藤だが実は緊張していて、この競技を観戦されていた常陸宮妃殿下に敬礼するのを忘れそうになったという。集中してスタートしたはずだったが、第1障害を早くも落下して会場にはどよめきが起こった。しかし、そこから持ち直し、もうひとつ落下が出たが、減点8でゴールして初優勝を自らの手で掴み取った。

女性選手の優勝は、2000年の山口千恵子以来2人目。騎乗した如意も牝馬である。コンビを組んで4年。中障害Aからスタートして大障害でコンスタントに活躍してきたが、大きなタイトルを獲得した。

「勝ちたいという思いを強く持って臨んだ大会でした。今年1年間 CSI-W をやってきましたが、そこで経験したコースよりも高く、下見をしたときには、こんなに大きな障害を飛越できるのかと思いましたが、如意を信じて走行しました。減点ゼロでゴールした時はすごく嬉しかったです。第2走行は、第1走行の結果が自信につながったのと同時に2回走行で

馬の疲れなどの不安もあったのですが、プラス思考を心掛けて自信を持って臨みました。2回走行の経験が少ないので、まずは自身のメンタル面をうまくコントロールしようと思ったのですが、やはり緊張していました。第1障害をいきなり落としてしまってびっくりしたのですが、その後も一つひとつ丁寧に走行しました。如意も一生懸命に走って、飛んでくれました。スーパーホースです。ゴー